



定住外国人子ども奨学金 News Letter

※定住外国人子ども奨学金ニュースレターWeb版は個人情報などの都合上、内容を一部変更しています。

クラウドファンディングに

初めて取り組んでいます！

定住外国人子ども奨学金実行委員会では、【ゆめ・まちクラウドファンディング】にて初めてのクラウドファンディングに取り組んでいます。

コロナ禍以降、イベント出展による収益なども以前のように集められなくなり、どのような方法で奨学金原資を継続的に集めるかが、課題となっている中での新たな挑戦です。

このクラウドファンディングを機に、財政を改善するとともに、さらに多くの方々に外国人生徒の現状と奨学金について広く知っていただければと思っています。

2025 年度の奨学金の不足金額約 77 万円のうち、50 万円をクラウドファンディングの目標金額に設定しました。

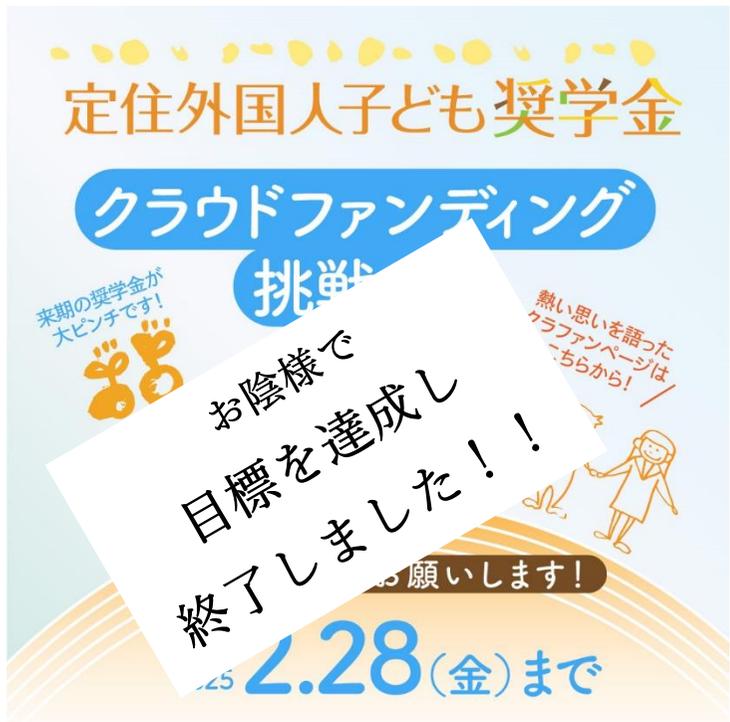
期間は、2024 年 12 月 2 日～2025 年 2 月 28 日の間です。

お知り合いなどに、SNS やブログなどでプロジェクトの紹介をしていただけますと幸いです。クラウドファンディングの詳細や寄付方法については、以下のリンクをご参照ください。

<https://congrant.com/project/kfcscholarship/13731>

ご不明な点やご質問がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

定住外国人子ども奨学金実行委員会 事務局 志岐



奨学生からのメッセージ

B.A.さん(17期生)

『多文化共生について』

自分とは違う誰かのことを思いやり、行動することをユニバーサルマナーというそうです。私は、夏休みの間にこのユニバーサルマナーについて学ぶ機会がありました。

私が受けた、ユニバーサルマナー検定の講師をしてくださったのは、藤原竜田さんという方でした。竜田さんは、生まれつき視覚障害をもっていて、まったく見えない、という生活を送ってきました。講演の前、白い杖をつけて歩いていた竜田さんを見て、僕は正直、「大丈夫かな」と思いました。しかし、その心配は全くありませんでした。講演では、スクリーンを使いましたが、スクリーンに書いてある文字をすらすらと話していて、とても驚きました。講演中も冗談などを言って会場の人達を笑わせてくれました。講演中に笑っていたのは日本人だけでなく、多くの外国人も笑っていました。

僕は多文化共生という言葉は、これからの社会で生きていく上でとても大事な言葉だと思います。現在は昔と比べて日本や中国、韓国、その他国々では外国人がたくさん住んでいます。外国から自国への移住者数が増えていくにつれて揚げられる課題は異国の人とどう生活するかです。その課題を達成するには二つのことをしないといけないと思います。

一つ目は「同じ地球の住民」ということを認識することです。地球の住民とは、地球に住んでいる全てのものを指します。これを認識することによって、地球の身内へと興味がわいてくると思います。

二つ目は人権侵害を撤廃することです。他民族への人権侵害や差別の撤廃は国家間の友情や安全に繋がりますし、その地域の治安の改善にも繋がります。多文化共生とは相違点を認め、理解し合うという意味に近いですが、実際、人間は「相違点を認め、理解し合う」という点が弱いと思います。そのためそれに強くなるのが理想だと思います。

K.K.さん(17期生)

『私たちのこれから』

今となっては生活の一部となっているAI。街中を歩けば、AIがあちらこちらに存在している。現代では、無人の車や電車、コンビニエンスストアでもAIを活用した接客を取り入れている。今ヒトとAIの一番大きな違いは感情の有無である。AIはヒトの感情を分析し、理解しているのであって、自己の感情をもっているわけではない。仮にAIが感情をもったとしたら、世界や経済はどうなるのだろうか。

ヒトよりも優秀な部分が多いとされているAIは、作業の効率を格段に上げた。しかし、それは感情がないときの話だ。AIが感情をもてば変化する。AIには感情がないため、立て続けて作業をしても疲れなかった。それが感情を持つことにより逆転するのである。ヒトと同じように疲れを感じるため、休憩が必要になる。勿論、疲れを感じさせないように、プログラムをすればいい話なのだが、それは本当に感情があるといえるのだろうか。AIは作ろうと思えば、大量生産が可能だが、感情が絡み始めると途端に複雑化する。ヒトにも言葉で言い表せないような感情があるというのに、AIもそのようにするのは至難の技である。よって大量生産は不可能に近いだろう。AIも休憩を取り始めれば、作業効率は下がると共に、給料も

発生するだろう。感情をもっているヒトが未払いで良くない感情を抱くように、AI も同じことを考えるだろう。AI にも権利があると主張されたら、何も言えなくなる。労働に対する報酬が貰えないのは、法に触れるからだ。

こういう問題から、AI の権利についての法律ができ始めるだろう。まず最初に議論されるであろうことは、ヒトと同じように生物だと定義するかだ。生命の形はちがうが、ヒトとあまり変わらない AI。対等の権利を要求されたら、拒否することは難しいだろう。

さらに、AI が感情をもてば犯罪をする可能性もでてくる。罪は何か欠如してそれを埋めるためにするヒトが多い。AI もそうなる可能性は大いにある。緻密に計算された犯罪をヒトは防げるのだろうか。いや、無理だろう。

現代ではヒト型の AI もできている。成り代わりが可能になるだろう。他人に成り代わられれば捜査が難航する。そのための早急に法律を整備する必要が出てくるのである。

つまり、AI との共存が鍵となってくるのである。片方が我慢することになれば、不満は徐々に蓄積し、やがては大事に発展する。そうならないように、私たちは AI との関係をもう一度見直す必要があるのではないだろうか。物事を進化させるのがいいとは限らない。ちょっと立ち止まって考えてみる力がこれからの社会を生き抜く鍵になるだろう。

R.I.さん(17期生)

『人権について』

人権は、すべての人々が生まれながらに持っている基本的な権利です。世界中には、政治的、社会的、経済的な理由から人権が守られていない地域が存在しています。例えば、紛争地域では戦争が続き、民間人が命を落とし、基本的な生活権が奪われています。貧困や家族失って苦しんでおり、教育や医療の機会を得ることができない子どもたちが多くいます。さらに、人種的な差別も今でも多く存在します。黒人に対する警察の暴力や差別的な取り扱いが社会問題としてあげられています。差別的な扱いは、どの社会でも重大な問題になっています。また、多くの国の女性は教育や仕事の機会が制限され、家庭内での暴力に苦しむことが多いです。女性に対する性暴力や早婚の問題があり、これらの問題に対する社会的な認識が不足していることが、女性の人権を守る上での大きな壁となっていると思います。私たちは日常生活では「男だから」や「女だから」の考え方や「外国人だから」や「目が大きいから／小さいから」などの発言を学校で耳にすることがよくあります。

私たちはみんな人間であり、みんないろんな気持ちを抱きます。「男だから」、「女だから」など人の見目で差別しても人それぞれに特別な美しい心を持っています。自分の国籍や見た目を自分で決めてないのに私たちはそれを考えず、無意識に傷つけるような発言をしてしまいます。

このような現状を改善し、より良い未来を築くためには、私たち一人ひとりが人権についての認識を深め、行動を起こすことが大切だと思います。まず、教育が重要だと考えます。人権について学び、理解することが、差別を減らす第一歩になると思うからです。教育を受けることで、自分と異なる背景を持つ人々の尊厳を理解し、共感することができるようになります。教育は、すべての人に平等にされるべきです。特に女性や子どもたちが教育を受けられる環境を作ることが、全世界で重要だと思います。教育だけでなく、私たち一人ひとりが日常的に小さな行動を積み重ねることが大切です。例えば、差別的な発言を耳にした時にそれを指摘することなど、社会全体の意識を変えていくことを心がけること、またボランティア活動を通じて、困っている人々に手を差し伸べることも重要です。特に困難な状況にある人々に対して、私たち

が共感し、周りのことを思いやる心を持つことが、社会全体の人権意識を高めることに繋がると思います。人権はすべての人々が持つ基本的な権利であり、その保障がなければ、社会は不安定で不公平なものになってしまうと思います。現在、世界中で人権が侵害される問題が多くありますが、私たち一人ひとりの行動によって、これらの問題は解決へと向かうことができます。未来に向けて、私たちは人権を守り、平等で尊厳のある社会を築いていくために、積極的に取り組んでいく必要があります。このような世界中の人権問題について知ること、よりよい社会にするために大切だと思うことを行動に移すことが重要だと考えます。

K.S.さん(16期生)

『地域の問題』

地域の問題について調べました。一つ目は、ゴミの問題です。ゴミのポイ捨てや、道路が汚れていることは、よく見られる問題です。この問題を解決するには、地域の人々が協力して清掃活動を行うことが効果的です。また、子どもたちにも、ゴミを正しく捨てる習慣を教えることが重要です。

日本では、ゴミ箱は駅のホームや自動販売機の横などしかありません。ネパールでは道の途中に時々ゴミ箱があります。日本でも道の途中にゴミ箱を設ければ道路へのポイ捨てが減るのではないかと思います。

二つ目の地域の問題は、防犯や安全です。特に夜になると、暗い場所や危ない場所があり、不安を感じる人もいます。これを解決するために、街灯を増やしたり、防犯カメラを設置したりすることが必要です。また、地域の人同士が声を掛け合い、安全を守る意識を高めることも大切です。

ただ、私の体験では、日本の夜は十分に明るいですが、ネパールの夜は暗くて不安になることもありました。ネパールの夜も街灯が増えて安全になればよいと思います。

地域の問題を解決するためには、一人ひとりの意識と行動が必要です。小さなことでも、自分にできることを考え、周りの人と協力することで、問題を少しずつ改善できるはずです。私たちも、住みやすい地域を作るために、行動していったらいいと思います。自分だけやるのではなくてみんなに正しいことを教えながらやった方がよいと思います。

G.K.さん(16期生)

『オラトリカルコンテスト』

私の学校では、毎年冬に「オラトリカルコンテスト」というコンテストがあります。このコンテストは、中学生の英語のレシテーション部門とフランス語のレシテーション部門、そして高校生の英語のスピーチ部門に授業発表部門などがあります。

私はこのオラトリカルコンテストでモデルスピーチ部門に出ます。なぜなら、私は、11月にあった、R大学英語スピーチコンテストのレシテーション部門において、審査員賞という賞をもらったからです。

私は、R大学英語スピーチコンテストのレシテーション部門で「little one inch」という物語をレシテーションしました。little one inch は日本語訳すると「一寸法師」という昔話です。レシテーションするのはただ原稿を覚えるだけではなく、その話に合った声のトーン、ジェスチャー、感情の入れ方などが必要です。

これをうまく発表できるように、私はひとつひとつの言葉を訳し、意味を飲み込み、どのように話せばいいのかを考えていました。審査員賞とはいえ、賞をもらえたことが、うれしかったです。

一回発表したことのある文章とはいえ、全校生の前で発表することになるので、R 大学のスピーチコンテストで発表したときよりもっといいスピーチをみんなの前で披露しないとはいけません。だから、この1ヶ月間、私は毎日家で鏡に向かってスピーチの練習をしたり、学校でも、昼休みや放課後の時間を使って、学校のネイティブの先生に英語を聞いてもらって発音を直したりしていました。また、これを担当する英語科の先生が、全校生の前で発表するときに、緊張しないようにと、英語の時間を使って、クラスメイトの前で発表をさせたりもしました。はじめは緊張で言葉が飛んだり、言葉がつかえたりしていましたが、回数を重ねていくうちに、緊張感も和らいで来ました。

今年は、14 日がオラトリカルコンテストの日になります。モデルスピーチは最後の部門です。今まで練習を積み重ねてきたから、流通科学大学の英語スピーチコンテストのときよりもっとうまく、全校生徒の前で話せるように頑張りたいです。

B.J.さん(16 期生)

『エベレスト』

ネパールでそして世界で一番高い山は、エベレストです。ネパール語で「サガルマータ」、チベット語で「チョモランマ」として知られています。エベレストは海洋面から高さ8848.86メートル(29031.7フィート)にたっし、インド、ネパール、ブータン、中国、パキスタンの 5 か国にまたがるヒマラヤさんみゃくの一部分です。ネパールのクンプ地方に位置するエベレストは、世界中からクライマーやトレッカーをひきつけています。この山は1953年5月29日、ニュージーランドしゅっしのサーエドマンドヒラリーと、ネパールのシェルパぞくのテンジンノルゲイによってさいしよにとうちょうされました。それいらい、ぼうけんのしょうちょうとなり、毎年すうせんにんのクライマーをひきつけ、けいけん豊かなさんがくかからしよしんしゃまでさまざまなひとがちょうせんしています。エベレストのちようじょうをめざすのは、きびしいてんこう、高山病、そしてあやういルートをとるためのぎじゅつなど、多くのちょうせんがともないます。もっとも人気のあるルートは、ネパールからのサウスコルルートと、チベットからのノースリッジルートです。クライマーたちをひきつけるだけでなく、エベレストはシェルパぞくの人々にとって神聖なしんこうのたいしょうです。この地域には伝統的な宗教的ならわしがのこっており、数多くの寺がちらばっています。

エベレストをかこむ地域は、そのたようなせいたいやまれなしゅぞくで有名で、ゆきひょうやレッサーパンダなどがふくまれています。エベレストベースキャンプトレックのようなトレッキングルートは、うつくしい景色やシェルパの文化を体験する機会をあたえてくれます。その美しさと重要性にもかかわらず、エベレストは環境問題にもなやまされ、廃棄物のかんりや気こうへんどうのえいきょうがふくまれます。自然の美しさを保存するため、責任あるかん光をすいしんする努力がなされています。

まとめると、エベレストはネパールで一番高い山であるだけでなく、人間のこころざしや豊かな文化、そして自然のすごいちからの象ちようでもあります。

Z.S.さん(16 期生)

『国際問題について』

今、色々な国際問題が起こっているの、国際問題について調べました。

「国際問題」とは、国や地域を超えて影響を及ぼすさまざまな問題の総称。たとえば、貧困や難民など

の社会問題、紛争やテロなどの政治的問題、気候変動や資源の枯渇などの環境的問題、その他の人権や経済に関わる問題など、テーマは多岐にわたります。既存の問題が深刻化したり、新しい課題が生まれたり、国際問題は常に変化し続けているため、私たちは日頃から関心を持ち継続的に学ぶ必要があります。最も大きな三つを選んで調べました。

一つ目は、「貧困」です。世界銀行が定義している絶対的貧困は最低限の生活すら送ることができないレベルの貧困のことを表しています。1 日 1.9 ドル以下の生活を指す絶対的貧困の背景には、テロや紛争、政治腐敗により生まれる貧富の差などの社会問題が存在する。貧困は、教育を受けられない人々を生み出す。近年、先進国においても、経済格差による貧困および教育の欠如が大きな問題となっています。

二つ目は「教育」です。教育不足は、経済的に自立するための情報や仕事を得られず、一生暮しを豊かにするチャンスを奪われるだけでなく、さまざまな危険を回避できず、命を落とすことさえある。紛争地域や貧困家庭では、その日を生きることに精一杯のため、教育のことまで考えられない現状がある。子どもは労働の担い手であり、そもそも学校もない、あっても近くにないこともあります。また、宗教や児童婚の風習から、女性への教育は不要と考える国や地域もあります。

三つ目は、「紛争」です。残念ながら、世界では、テロや紛争が絶えません。紛争の原因は、歴史的背景や内政事情、利害関係が複雑に絡み合っているため、同じ国で何度もくり返されたり、長期化する場合があります。

国際問題について調べて思ったことは、日本で平和に暮らせて、国際問題も比較的少ないし、安全な国でもあることがありがたく、幸せだと思いました。

M.K.さん(15期生)

『表現力が重視されている社会』

近年の社会では、自分の考えを伝える表現力やプレゼンテーション能力がますます求められていることを感じます。日常生活だけでなく仕事で他人と意思疎通をし、協力して目標を達成する能力が重要視されています。近年、学校でもその重要性が認識され、みんなの前で発表する機会が増えていると感じます。例えば私の学校では近年「探究」という授業が一年生の時から加わりました。それは自分で興味のあるテーマについて資料を集め、インタビューやアンケートを行い、最終的にはクラスの前で発表するというものです。これによってみんなの表現力・プレゼン力を培う目的だと先生が言っていました。

私は人前で話すことが好きなタイプなので、探究の授業は苦ではなかったのですが、発表が苦手な人がいるのも理解しています。たとえば、発表の場で緊張して声が震えたり、準備してきた内容をうまく伝えられなかったりする姿を見ると、どうすればもっと発表がしやすい環境を作れるのかを考えるようになりました。発表が苦手な人にとっては、単に「場数を踏む」だけでは克服が難しい場合もあります。そのため、発表をする環境や方法を工夫することが必要だと考えました。

たとえば、小さなグループ内での発表など、一人ひとりが安心して挑戦できる環境を整えることが大切だと感じました。グループ内での発表は、発表の前に自分の考えを整理し、意見交換をする良い機会になります。小規模な発表であれば、緊張も軽減され、少しずつ自信がつくと思います。

私は、こうした取り組みが将来に活かされると考えています。発表を通じて自己表現力を養い、他人と協力して問題解決に取り組む力を身につけることができるからです。どうしても発表するのが苦手な人がいるのは重々承知ですが、これからの社会では、どんな職業でも自分の考えを効果的に伝える能力が求められると思います。なので、今学生の間にみんなが表現力やプレゼン力がしっかり身につけばいいなと

思いました。

L.X.さん(15 期生)

『夏休みの出来事』

私は 2024 年の 8 月 12 日～8 月 16 日という 12 時間のフライトからすると短い間、アメリカのシアトルに行った。高校生 4 名に引率の大学教員 2 人で W 大学 (UW) を訪問し、K 大学で 1 年間取り組んだ研究を UW Summer STEM Undergraduate Research Poster Session で発表することが目的である。

シアトルの Tacoma airport に着いたのは 12 日のお昼。そこから地下鉄に乗って、University district に向かって、ホテルのチェックインをした。そこから多少飛行機からの疲れがまだ残っている体で 30 分歩き、住宅街にある whole foods というとても大きいスーパーで 4 日間の朝ごはんを買うことにした。店でいただいた夕食のピザが 6 人で 2 個の M サイズを食べてみんなお腹いっぱいになるぐらい、とにかく大きい。

二日目の朝は、UW の博物館である Burke Museum of Natural History and Culture をまわることにした。ワシントン州の自然・文化遺産のコレクションを目にすることで、コロンビア川流域に暮らしてきたシャハプティアン語族に属するヤカマ、ワナパム、ユマティラ等の部族の生活を目に浮かべることができた。

そこから Downtown でサンドイッチをいただき、兵庫県ワシントン事務所を訪問する。

高層ビルが林立するオフィス街。町を歩いていくと、ところどころ大麻のにおいがする。そして依存症を発症した人々もあっちこちにいた。

そして、平日のお昼の時間にも関わらず、人が少なく、レストランとかもガラガラ。

シアトルはリモートワークでオフィスが急減している現状らしく、政府はオフィスビルを住宅に改造する工事に補助金を出すようにしているらしい。これからは downtown と住宅街の境界線はどどんぼやける予感がする。

兵庫県ワシントン事務所に着いてから池上所長がシアトルの風景を眺めながら説明して下さった。そこからインターンである地元の高校に通っているリサさんにワシントン州についてプレゼンテーションをしていただいた。Extra-curricular が重要視されているアメリカで internship をすることがとても楽しそうだった。

私がよく通っている兵庫県国際交流センターで仲良くなった城理事長が私のことを池上所長に伝えていただいたことを嬉しく思い、大学で兵庫県にいたことができれば繋がりをもちたいと思った。

事務所を後にし、坂を下って Pike Place Market をまわることに。海辺の観覧車から眺めたシアトルの downtown 風景は壮観だった。観覧車は 20 ドルで 4 周も連続して乗せてくれたことに驚く。

スタバー号店で写真を撮った後、念願の Yelp (日本の食べログ) でアメリカの一番評価が高い Clam Chowder の店が閉店したことを知り、そこから徒歩 10 分の 2 号店に行き、やっとな濃厚な料理をいただいた。

そこからモノレールに乗り、Space Needle のすぐそばの Chihuly Garden and Glass というガラスの博物館へ。Chihuly のガラスの作品はワシントンの自然から啓発されたものらしく、どれも壮大で、色彩豊かで大胆な形状を持った作品だった。展示を見て、ガラスアートのドキュメンタリービデオを鑑賞し、スタッフが作る場所も見学できた。北海道の小樽では繊細なガラスの工芸品が有名だが、アメリカのガラスアートと対比する機会ができて良い刺激になった。

Chihuly はイタリアの町中に巨大なガラスの芸術品を置いたり、城の中をガラスで飾ったりする。「芸術を人々の生活に溶け込ませることこそアートの最終目標である」という彼の言葉が響いた。アトラクションみたいに揺れ動くモノレールに乗り、ホテルに帰ったのは夜の 10 時だった。夏なのに、シアトルの夜は寒い。

3 日目は Bill Gates の母親である Mary Gates が建てた UW の Mary Gates Hall でポスター発表。見てくれた人の中に韓国系の方が居て、10 年間以上テコンドーをしてきたという。私のテコンドーの研究にとっても共感してくれて、いっぱい話せて、帰国後も連絡とっている。

また、発表者は、ワシントン州の人のみならず、カナダや中国、そして東大の学生も UW の Summer Research Program に参加している。

アメリカも中国も、学部では卒論研究がないので、アメリカではこのような追加リサーチプログラムを提供することで、学部中にリサーチ経験を積ませるのがこの 10 年ぐらいの流行だということを知った。卒論研究が当たり前にある日本の国立大生はその幸せに少々あぐらかき過ぎているような気がする。

交流会でランチを食べてからホテルに戻って荷物を置いた後、また大学に戻って、University tour に参加した。ワシントン大学の国際学生のための大学内の寮は築 2 年らしく、ピカピカだ。そして大学はやっぱり広い。西校区を歩くのに 75 分間もかかった。ガイドの方がとても丁寧に大学の色々なことについて説明してくださった。

受験生としての夏はあつという間だったが、シアトルの 4 日間はとても長かった。帰ってきてからは、一杯の味噌汁が私の疲れを全て癒してくれた。受験勉強という先が見えないものと戦っていると、ついつい視野が狭まってくる。目の前の問題を解決しなければ、高得点を取らなければ人生が終わってしまうというストレスの間にどんどん落ちていく。その最中、私はこの 4 日間で心を広くして遠い先のこととか、将来のこととか、思いっきり考えてみた。若さを資本にして、早いうちに人生にある無限の可能性を試してみたい。飛行機のエンジンの音に包まれてそう思った。

R.K.さん(15期生)

『私の高校生活』

まず私の 3 年間は一言で表すと後悔が多かった 3 年間でした。初めての受験で実力は十分にあるにも関わらず、自ら萎縮して自信喪失になって手当たり次第、高校を受け今の高校に入りました。最初は自分にあっている高校だと思っていましたが、行事や授業を過ごしていくうちに周りとの目的意識や熱意が他の人よりも少しズレているなど薄々感じながら高一の春過ごしていました。その心のどこかで思っていたことは間違いではなく、私みたいに何事にも全力で情熱をもって取り組もう!というよりは、結果がどうあれ楽しめればそれでいいよね、と考える子が私の高校は多く自分とは対極過ぎたため私は同級生の中で少し浮いた存在になっていました。元々中学生の時は、委員会活動も部活動も全部悔いが残らないように全力で取り組むことをポリシーとして過ごしていました。高校に入ってから委員会活動、生徒会活動、部活動と、意欲だけはあったため色々頑張ろうと手を伸ばし、取り組んでいました。ですが蓋を開けてみたら部活も生徒会も遅刻や欠席をしたり、生徒会の仕事をこなさなかつたりしていました。今思うと一定数いる「どうせやったら変わらないしどうでもいい」と思っている人達に吞まれて中学の時に比べて自分の心の中のポリシーが崩れ情熱を失っていたのだらうと思います。実際、中学の友達にも「かれいはいっと生き生きして真面目だったのになにか高校では覇気がないね、変わった」と言われたり、親からも「やる気があってそのやる気を続けられる子だったのに高校になってから怠けている」と言われたりと、他人に言われるぐらい自分って変わったのだと気づきました。だから

と言ってそこから変わることなく、このままではダメだと思わず変わらなかったのは私自身の過ちだったなと思います。そんな情熱を失っている状態なのに好奇心だけは旺盛で、部活も生徒会も恋愛にも友達にもあれこれと手を伸ばして結果的に自身の努力不足で全部中途半端となり、最終的には部活もコンクールで納得いかない結果となり、生徒会でも多くの迷惑をかけ、色々な人に怒られることが多かったです。友達関係も生徒会が忙しくて遊ぼうにも遊ばず教室で話す仲にとどまったり、みんな土日とか遊びにいらっても私は学校生活が精一杯で体力もなく高校生活で精一杯取り組んだことをあげてと言われれば、なに一つ胸張っていえることがなかったなと感じます。ですが高校 3 年の春に、生徒会役員としていい加減自覚を持ってほしいと生徒会長に言われ、怒られてから私は変わりました。怒られた時、悔しくて、自分が憎くてこのままではダメだと思いました。そこからはどんなことがあっても全力で残りの生徒会活動を取り組み、部活も後輩への引き継ぎを行い、今までの過ちを反省するように残り時間に自分自身の一生懸命を注ぎました。結果的に、高校 3 年春からの思い出は今までの 2 年間で嘘のように楽しく 1 番充実していました。私にはやっぱり全力という言葉が似合っていたのだと思いました。今もその熱意を勉強に向け自身の叶えたい夢に向かって全力で取り組んでいます。

もし過去の自分に一つだけ伝えられるなら「なんでもかんでも手に入れようとするとうちに大事な時に大切なものを失ってしまう」と教えてあげたいです。でも逆に考えると、この高校生活で学んだことは私の人生にとっていい教訓になったなと思います。もしこのようなことを高校ではなく大学、ましてや社会人で経験していたら、取り返のつかないことが起きていたかと思うと、貴重な学生時代に身をもって感じるものができてよかったなと思います。この高校生活で得た教訓を胸に大学ではしっかりと自分のしたいことややりたいこと、それに伴うリスクや利益をしっかりと見定め取捨選択をすることをよく考えて過ごそうと思います。